

くろうるしともえち せきれいら でんくら
「黒漆巴散らし鶴鶴螺鈿鞍」保存修復報告

上江洲安亨^{*1}・室瀬和美^{*2}・大西智洋^{*3}

1 はじめに

財団法人海洋博覧会記念公園管理財団首里城公園管理センター所蔵「黒漆巴散らし鶴鶴螺鈿鞍」（以下、本作品）の保存修復処置は、平成21年6月より平成22年3月まで東京の目白漆芸文化財研究所に於いて行われた。以下はその修復内容を記録したものである。

2 概要

時代 16世紀頃か[1]

法量 長さ38.0cm×幅40.5cm×高さ27.5cm

海有鞍の形式で前輪に手形が彫られた螺鈿鞍である。黒漆塗りの地に、微塵の薄貝が全体に蒔かれ、前輪の巴紋が散らされた中央に鶴鶴が螺鈿で表され、裏には松葉が表わされている。旧萬野美術館の所蔵品で、鞍橋のみが所蔵され鐙やその他付属品は不明である。



黒漆巴散らし鶴鶴螺鈿鞍

3 現状

前輪・後輪と居木は、それぞれ麻紐で結び留められている。居木は亀裂が生じ、開いた状態である。過去の使用によると考えられる木地の割れや欠損が全体に見られ、特に居木の後輪との接合面で大きく割損し形体が失われている。前輪・後輪には一部修理が施された跡が残り、前輪の正面右上部は摩損と共に螺鈿の上に色漆と透漆で補修がされている。馬膚は布張りや摺漆が施されていたようだが、磨耗によって布張りが一部失われ木地が露出している。



麻紐結び目 馬膚摩損



居木の割れ

*1 (財)海洋博覧会記念公園管理財団 首里城公園管理センター 事業課 調査展示係 係長

*2 目白漆芸文化財研究所 修復責任者

*3 目白漆芸文化財研究所 修復担当者

[1] 本作品の制作時期及び伝来について、豊田勝彦氏より室町時代頃の本土で制作された可能性があるとのこと指摘を受けた。

経年の塗膜劣化が進み、塗膜表面が一部チョーキングを起こしている。塗膜は全面にわたり汚れが付着し、螺鈿の貝および塗膜に剥離・剥落が見られる。大半の貝に剥落の危険性があり不安定な状態である。打損による塗膜欠失箇所も多く、周辺塗膜に剥離が生じている。



前輪正面右上部の摩損と色漆



螺鈿剥離

4 修復方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修復に則り、現状保存修復を原則として行う事とする。修復に際しては、十分に事前調査を行い、傷みの現状を確認した上で修復行程を決定する。また、写真撮影を伴った修復の記録を取り、修復後と比較できるようにし、修復終了後報告書を作成し提出する。

5 修復

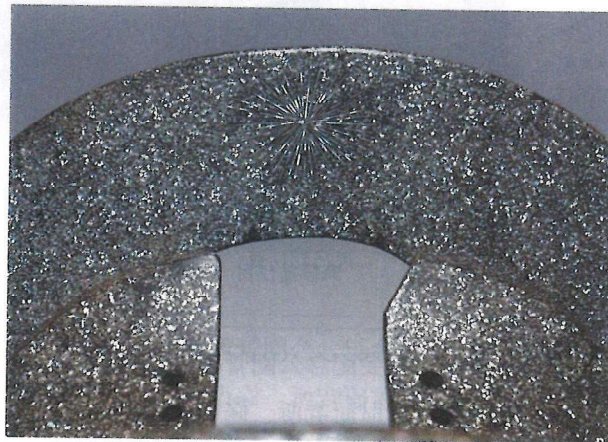
修復前写真撮影・記録・修復方針検討

保存修復処置を始める前に、現状の記録を残すために写真撮影を行った。さらに損傷状態の把握と、修復方針の再検討を行い具体的な処置工程を決定していった。

居木は前輪・後輪との接触箇所ですり減りから形体が一部失われていた。また、前輪正面の右上部・馬膚・爪先で摩耗が生じていた。すり減り部の形体復元と、すり減り面・摩耗部の漆固めを当初は検討されていたが、すり減りや摩耗は実用品であった事の使用痕とする考えから現状のまま残す事とした。



前輪・居木の割損



後輪・居木の割損

解体

前輪・後輪・居木を結んである紐を外し、解体によって四つの部材に分けた。



麻紐結び目



麻紐結び目



解体



解体後 前輪・後輪



解体後 居木

クリーニング

柔らかい毛棒で塵や汚れを払い落とし、紐を通す穴にも汚れが溜まっていたため丁寧に埃を取り除いた。剥落の危険性がある貝には短冊状に切った雁皮紙を弱い糊で仮止めを行い、剥落の防止処置を行った。

クリーニング作業では、漆塗膜に傷が入らないように漆塗膜に付着しているカビ汚れは、柔らかい木綿布に極少量の水分を与えたもので少しずつ拭きとりながら除去作業を行った。水分のみで汚れの除去が可能であったため、アルコールを使用した除去方法は行わなかった。漆塗膜上に時代を感じさせる経年の汚れが残されているが、表面同様に除去は行わないで仕上げとした。



埃の除去



穴の掃除



剥離螺鈿の養生



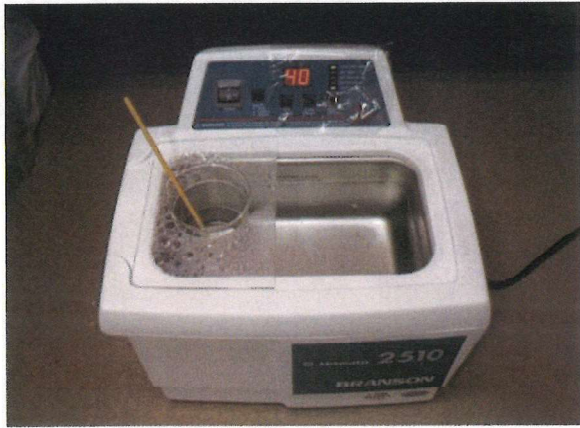
クリーニング



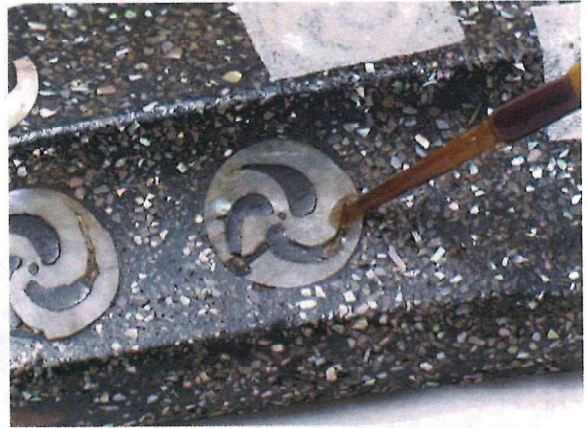
汚れ除去

螺鈿・塗膜接着

螺鈿がほぼ全面にわたり剥離が進行し不安定な状態であるため、前輪・後輪・居木の各部が安定するような受け台をそれぞれ製作した上で、剥離状態を確認しながら膠での接着安定作業を行った。膠は、10%濃度の膠水を超音波洗浄器で振動を与え表面張力を低下させたものを使用した[2]。剥離箇所には膠水を流し入れ、ヘラで剥離箇所を動かしながら奥まで膠水を入れた。膠水がゲル化した後、処置箇所にはナイロン紙を当て、樹脂板とゴム板を組み合わせて処置箇所の形体に合わせた当材をナイロン紙上に当てた状態で圧着固定を行った。余分な膠はナイロン紙に吸わせると同時に、圧着時の保護を行った。



超音波洗浄器



剥離螺鈿 膠接着



剥離螺鈿 膠接着



剥離螺鈿 膠

[2]『在外日本古美術品修復協力事業 修理報告書 工芸品 I』加藤寛編、p.36-42
(1999) 東京国立文化財研究所

剥落して別途保存されている貝片は、位置が確認できたものは本来の箇所に戻し接着を行った。



別途保存されていた貝片



貝片の剥落箇所

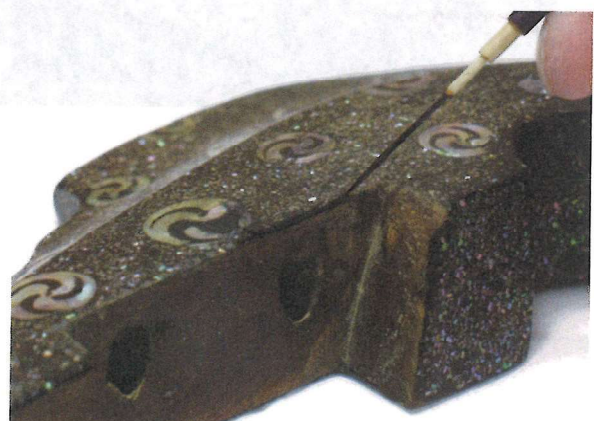


剥落箇所に貝片を合わせる

漆塗膜の剥離箇所は、塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈して塗膜下に染み込ませ、溶剤が揮発後に圧着固定を行い接着した。



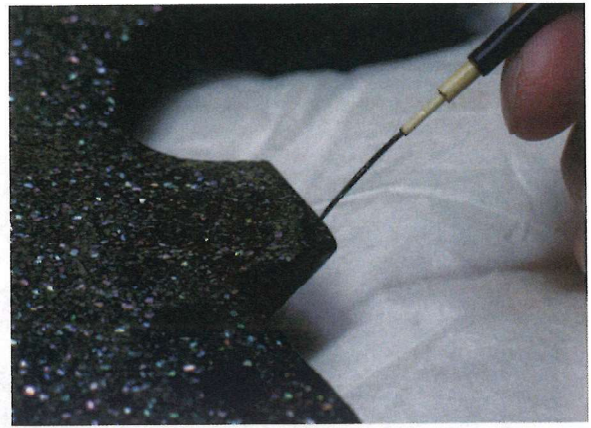
剥離塗膜（下地から）



剥離箇所に麦漆を染み込ませる



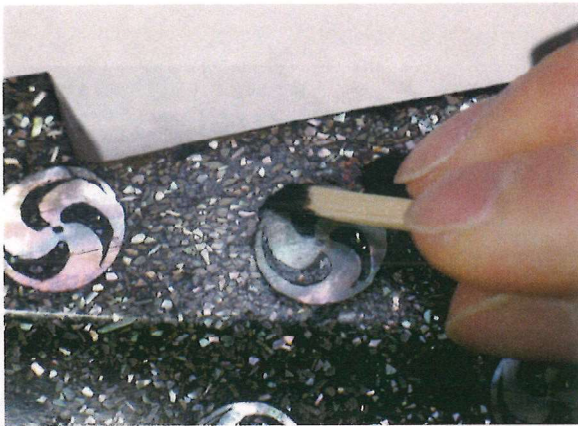
亀裂部周辺の塗膜剥離、麦漆接着



亀裂部周辺の塗膜剥離、麦漆接着

貝の段差に錆漆下地付け

螺鈿が安定した後、一枚一枚の貝の段差際に錆漆下地を施し、貝裏に漆が浸み込まないように養生を行った。



後補修理除去

過去に前輪の手形付近が割れたようで、修理によって亀裂の周辺を色漆で補修がされていた。製作当初の螺鈿を覆い隠し雰囲気損ねていたため、漆塗膜や螺鈿を傷つけないよう注意しながら刃物を使用して除去を行った。



補修跡



刃物で除去



除去後

漆固め

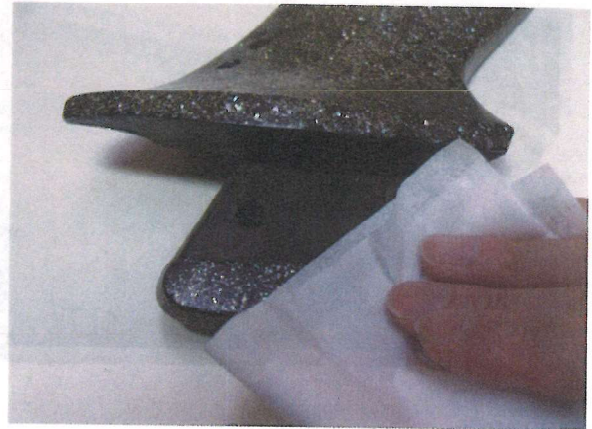
漆塗膜の劣化を防ぐため、全体に漆固めを行い、木地の割損面や摩耗した木地に漆が付かないように作業を行った。十分に乾固した後、塗膜の剥離及び亀裂部に順次麦漆を含浸し接着を行った。



漆固め 溶剤で希釈した生漆を木地に付かないように塗布



塗布後



拭き取り

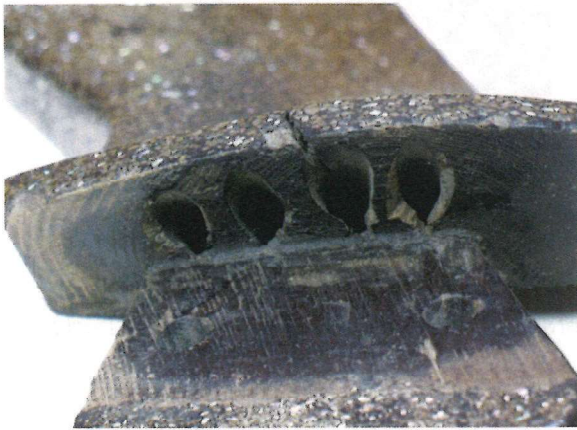


拭き取り後

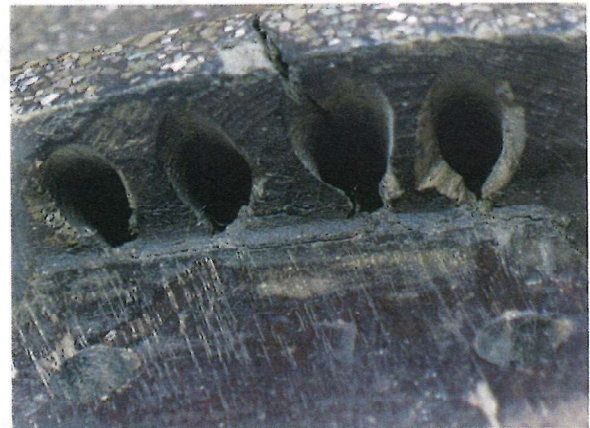
構造安定

過去の修理箇所と思われる馬膚への布張りを観察すると、居木先の付け根から割れと補修の跡が確認できる。使用に伴った加重によって木目方向に割れが生じたと考えられる。前輪が組まれた状態では、損傷の程度を判断するのが難しい箇所である。

割損周辺の木地に希釈した麦漆が染み込まないように、薄いヘラで割損部にのみ麦漆が入るように処置を行った。



居木先 前輪側



居木先 付け根 割損と補修跡



居木 馬膚の布張り補修



割損部の麦漆接着

居木の亀裂はすでに開いたまま動かないため、充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈し流し入れ、現状で構造安定をはかる処置を行った。亀裂箇所の接着後、開いた隙間に麦漆に麻の繊維と木粉を混合した刻苧を下地の高さまで充填を行った。



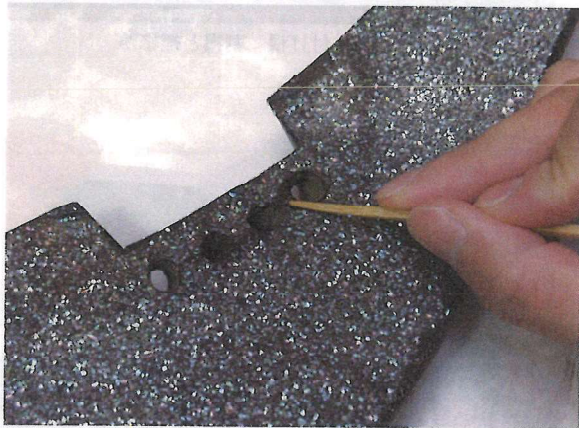
亀裂箇所 麦漆重点接着



開いた隙間に刻苧充填

細かな打損による欠けは、取り扱い時に引っかかる恐れがある箇所には刻苧で形体を戻した。

刻苧表面に錆漆下地を施し、面積が大きい箇所は周辺を傷つけないように砥石で水研ぎし表面肌を整えた。
螺鈿・塗膜との段差際に極少量の錆漆下地を付け、漆固めを行い展示上違和感の無いように仕上げた。



刻苧充填



刻苧箇所、錆漆下地付け



錆漆下地、砥石で水研ぎ



亀裂箇所、錆漆下地で際錆



前面

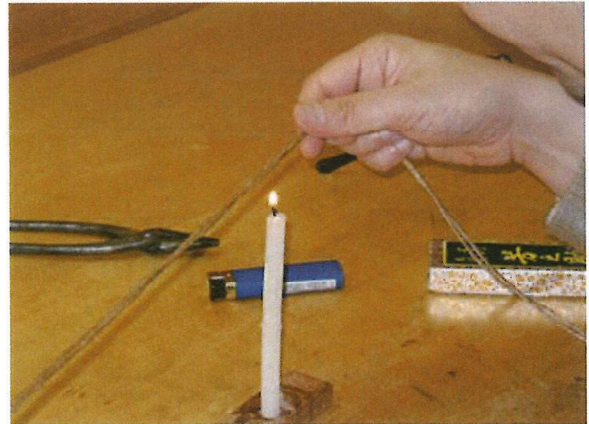


背面

組み立てに使用した紐の材料として、鹿革等の動物系材料と麻が候補に挙げられた。今回、組み立てを依頼した甲冑製作・補修・考証をされている豊田勝彦氏と検討した結果、麻紐を使用することとした。結び方も装飾的要素が強いものではなく、構造安定を主眼に置いた結びを採用した。新調した麻紐は、蠟燭の火で毛羽立ちを焼き取り使用した。



新調した麻紐



毛羽立ち除去



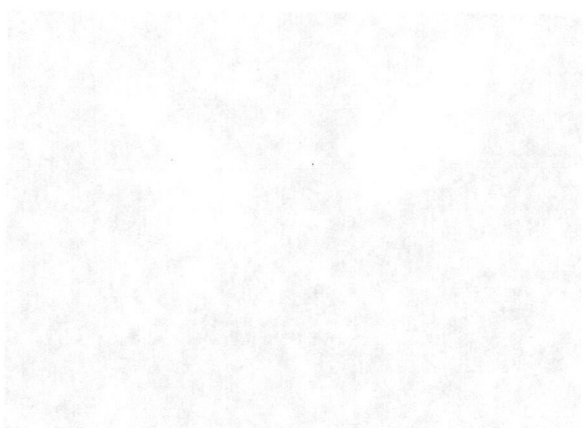
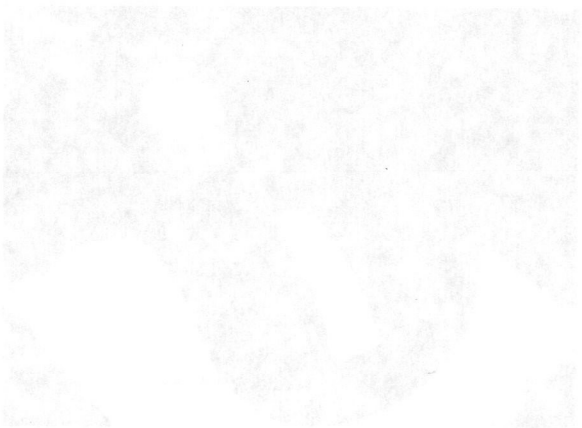
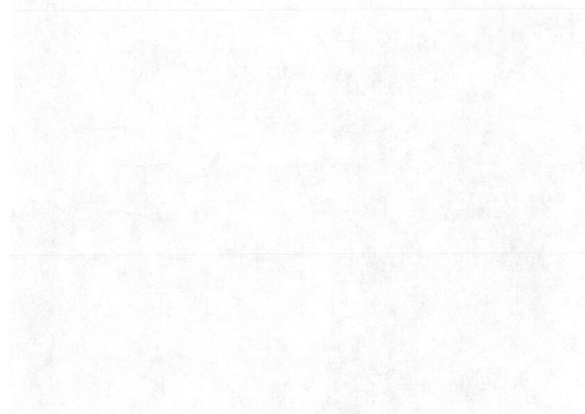
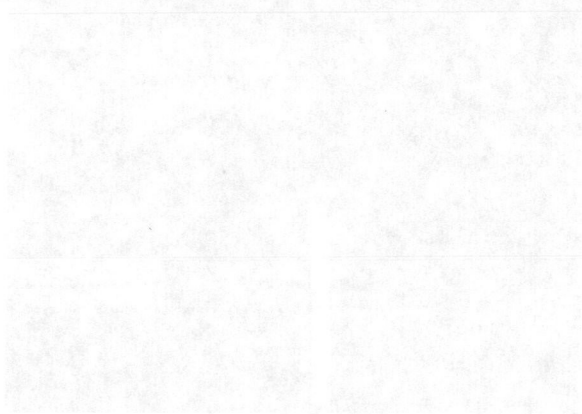
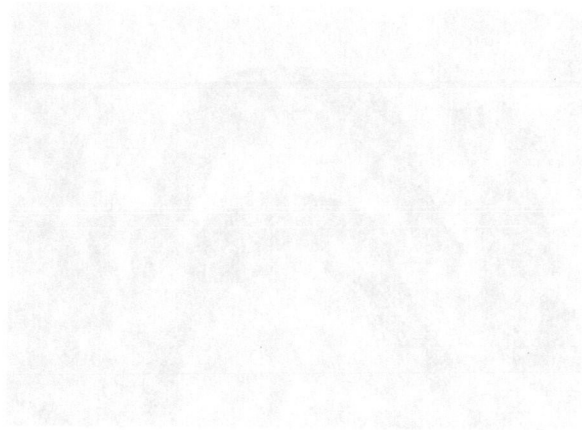
組み立て



組み立て

6 修復工程

- 1) 修復前写真撮影・記録・修復方針検討
- 2) 解体
- 3) クリーニング・剥落止め
- 4) 螺鈿接着
- 5) 貝の段差際に下地付け
- 6) 後補箇所除去
- 7) 漆固め
- 8) 剥離・亀裂部接着
- 9) 刻苧充填
- 10) 下地付け
- 11) 塗膜の段差際に下地付け
- 12) 組み立て
- 13) 修復後写真撮影
- 14) 報告書作成





修復前



修復後



修復前



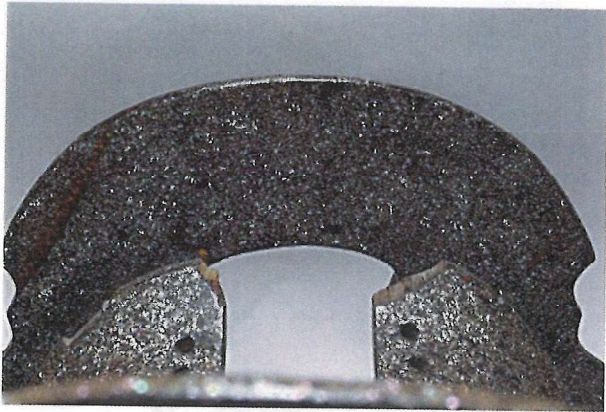
修復後



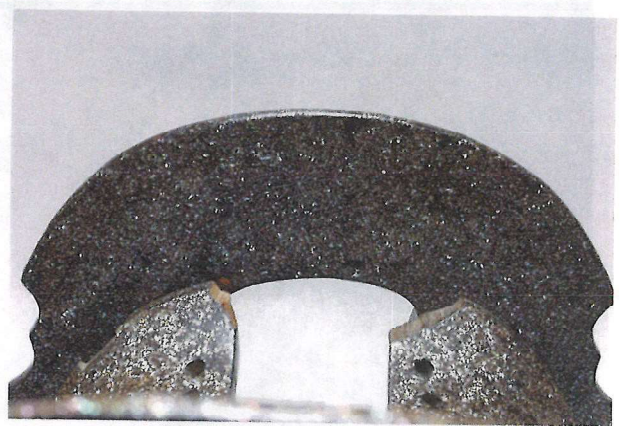
修復前 前輪 正面右上



修復後 前輪 正面右上



修復前 前輪 背面



修復後 前輪 背面



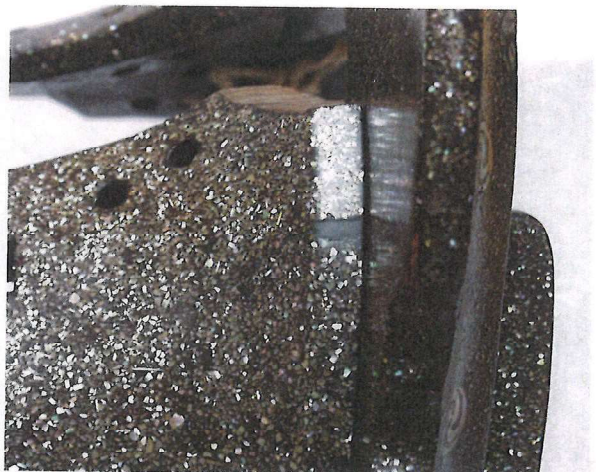
修復前 居木 後輪側



修復後 居木 後輪側



修復前 居木 前輪側



修復後 居木 前輪側